

ジャケットの着用じわについて

佐藤 真知子* 渡部 旬子* 露木 裕子**

On Creases in Jackets

Machiko Satoh Junko Watabe Yuko Tuyuki

要 旨 着衣の外観を損なうものとされている着用じわについてどの部分にどのように発生しているか、その実状を把握し、着心地の良い衣服パターン設計の基礎資料とすることを目的とする。

まず、特性要因図により着用じわを「気になるしわ」「気にならないしわ」及び「一時発生的なしわ」「定着したしわ」に分類した。次いで、日常生活における着用じわの発生状態に対する意識調査を行った上で、実状をとらえるためにジャケット着用者の写真を撮影し、その特徴をとらえ、意識調査の結果と対照した。

その結果、気になるしわは、「定着したしわ」あるいは「一時発生的なしわ」であっても身体に不適合でつれた斜めや横のしわであり、気にならないしわは、「一時発生的なしわ」で縦の余りじわや動作による斜めのしわであった。

(キーワード 外観: appearance, ジャケット: jacket, しわ: crease)

1. はじめに

着衣に発生するしわは、種々の力学的要因により表面に不規則な折り曲げや波打ちが生じたもので、人体の動作による形態変化に衣服が追従しきれず生じた結果であり、一般に着衣の外観を損なうものとされている。

本研究では、日常生活において着衣に発生するしわが、どの部分にどのように発生しているか、その実状を把握し、着心地の良い衣服パターン設計の基礎資料とすることを目的としている。

しわに関する研究は、主として被服材料としての布地に発生した「しわ特性」を中心としたもの^{*1}に加え、着用によって生じた「着じわ」を硬化^{*2}させたり、モアレ写真^{*3}を撮ったり、レプリカ^{*4}と比較するという評価法などが、報

告されている。また、動作や部位を特定した着じわの実験報告^{*5}はあるが、広く日常生活の中で捉えたものではない。さらに被服構成における仮縫い試着段階では、体型不適合によるしわや、フィットしていないために生じたしわなどについては、チェックされているが、実生活において着用中の衣服にどのようなしわが生じているかについては、未だきちんと把握されていない。

このような現状をふまえて、先ずしわの発生要因について特性要因図(図1)で「衣服側による要因」と「ヒト側による要因」との2つに分けてみた。

本研究は、図1における「動き」の項目に起因する「ジャケットの着用じわ」の動的挙動を把握しようとするものである。その為、脱衣後も回復しないで残るしわを便宜的に「定着したしわ」、また着用によって挙動の変化する着用じわを「一時発生的なしわ」として大きく2つに分けて考えることとした。

* 文化女子大学

** 文化女子大学(H9年卒業生)

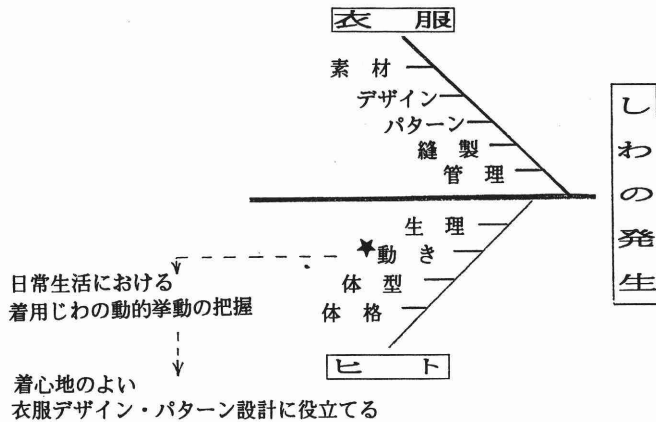


図1 しわ発生の特性要因図

次に「着用じわ」がどのように捉えられているか、どのように見られているかについての意識調査と、日常生活の中で撮影したジャケットの着用写真をもとにして、「着用じわ」の分析を試みた。

2. ジャケットの着用じわに関する意識調査

2-1 調査方法および項目

本学学生70名を対象に'96年秋に行った。

表1は、「ジャケットの着用じわ」に関する意識調査項目である。Q5は、学内及び近隣の街頭で撮影した日常的なジャケットの着用写真のうち、しわの目立つ10枚を選び出したもの(図2)を提示し、各々の着用じわについてどのように感じるか、12の選択肢から選択させた。

2-2 調査結果

表1 「ジャケットの着用じわ」に関する意識調査項目

- Q1 ジャケットの着用じわ(服を着て動いた時に発生するしわ)について、どのように思いますか? <選択肢 10>
- Q2-1 所持しているジャケットに、気になるしわが発生することがありますか? <YES, NO>
- Q2-2 それは、どのようなしわですか? <自由記述>
- Q3 ジャケットを購入する時、試着で発生するしわを気にしますか? <YES, NO>
- Q4 試着時、以下のしわが発生した場合、そのジャケットを購入しますか? <選択肢 7>
- Q5 提示した10枚の写真の着用じわについて、どのように感じましたか? <選択肢 12>

2-2-1 Q1 ジャケットの着用じわ(服を着て動いた時に発生するしわ)について、どのように思いますか?(図3)

いわゆる一時発生的な「ジャケットの着用じわ」についてどのように思うか、10の選択肢から1つ選択させた結果である。

「自然な感じ」というのが最も多く、次いで「見苦しい」「仕立てが悪そう」「窮屈な感じ」「気にしたことがない」「不快」「安っぽい」「着心地が悪そう」と続いた。

着衣のしわは、外観を損ねるものとの思いが当初あった為、しわへの意識については否定的な回答が大半を占めると思っていたが、このようにしわを受容する回答が少なからずあったことは、意外な結果であった。

2-2-2 Q2-1 所持しているジャケットに、気になるしわが発生することがありますか?(図4)

気になるしわの発生体験については、70%の人が、有ると回答している。

ジャケットの着用じわについて

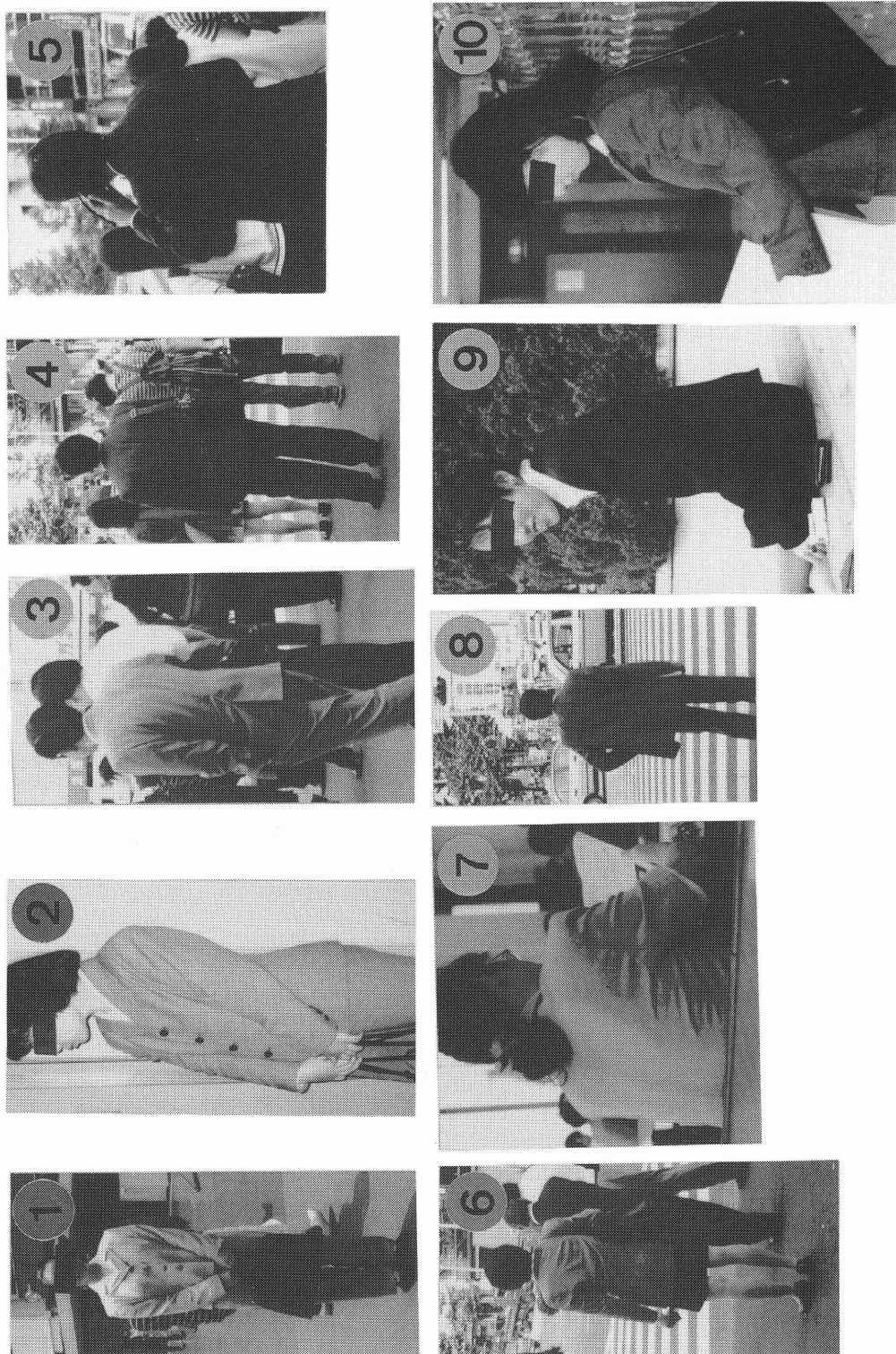


図2 ジャケットの着用写真 (Q5で提示)

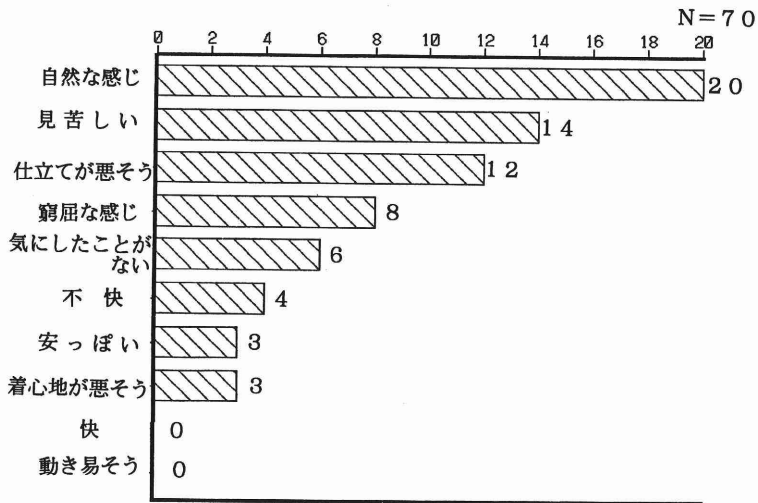


図3 着用じわに対する意識

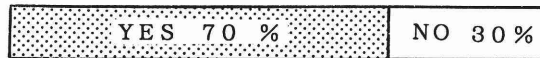


図4 気になるしわの発生体験

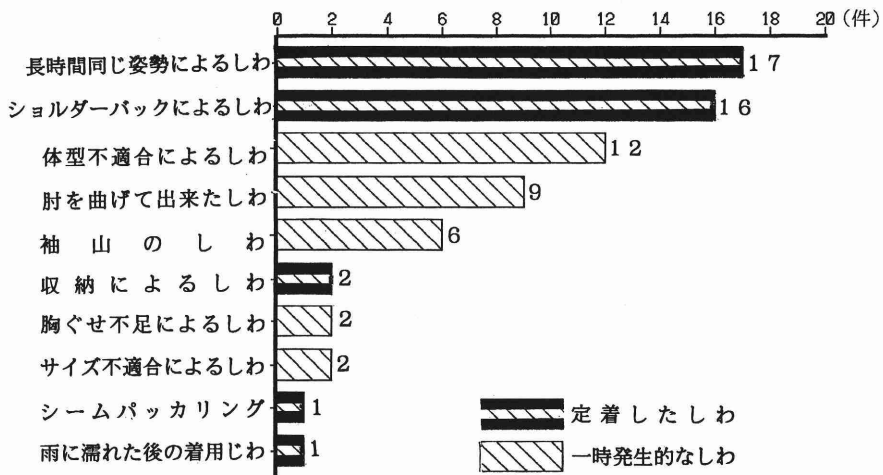


図5 気になるしわの内容

2-2-3 Q2-2それは、どのようなしわですか？(図5)

その内容を、「定着したもの」と「一時発生的なもの」とに分けてみると、気になったしわとして第一に挙げられたのは、長時間同じ姿勢をした時に発生した「定着したしわ」であった。次いで気になったのは、ショルダーバッグによるしわで、これもほとんどが「定着したしわ」といえる。

以下の体型不適合、肘曲げ、袖山のしわは、始めは「一時発生的なしわ」であるが、時間の経過によって定着してくる性質のしわと言える。他には、胸ぐせ不足、サイズ不適合が挙がっている。

「定着したしわ」としては、少数であるが、収納によるもの、シームパッカリング、雨に濡れた後のしわが挙げられた。

以上、気になったしわ体験として挙げられたものは、「一時発生的なしわ」より「定着したしわ」の方が圧倒的に多く、Q1の「しわ意識」と反対に、しわは外観を損ねるものとして認識されているという結果であった。

2-2-4 Q3 ジャケットを購入する時、試着で発生するしわを気にしますか？(図6)

ジャケット購入時、試着で発生するしわが気になるかどうかについては、約70%の人が気になると回答している。

2-2-5 Q4 試着時、以下のしわが発生した場合、そのジャケットを購入しますか？(図7)

購入の是非を決める試着時のしわの様子をみると、動作に伴う「一時発生的なしわ」であれば買うとされ、繰り返しの動作による「定着したしわ」の場合は半々となり、以下細身のシルエット、ボタン留め、着心地は良いが目立つ、シームパッカリングの順に買う人は少なくなり、体型不適合の場合には、ほとんどの人が買わないという結果であった。

2-2-6 Q5 提示した10枚の写真の着用じわについて、どのように感じましたか？(図8)

「動作に伴って発生するしわだから気にならない」が最も多く、2位の「自然な感じのしわだから気にならない」と合わせると全体の約40%を占めている。次いで、つれていように見えるしわ、長いしわ、細かいしわが挙げら

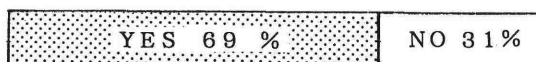


図6 試着時のしわに対する意識

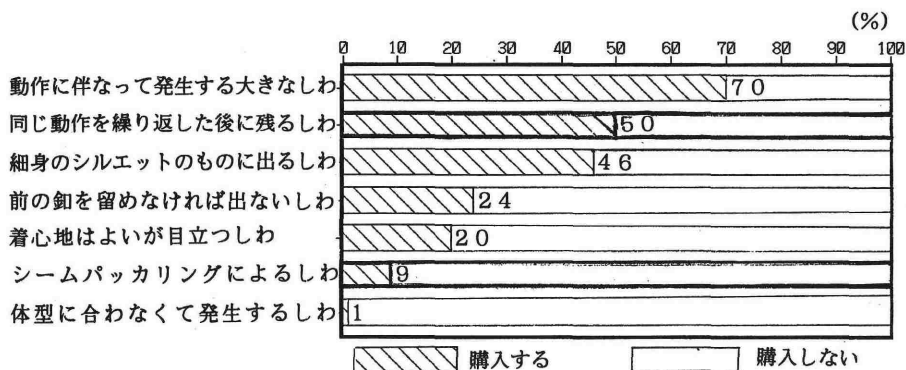


図7 着用じわ別購入の是非

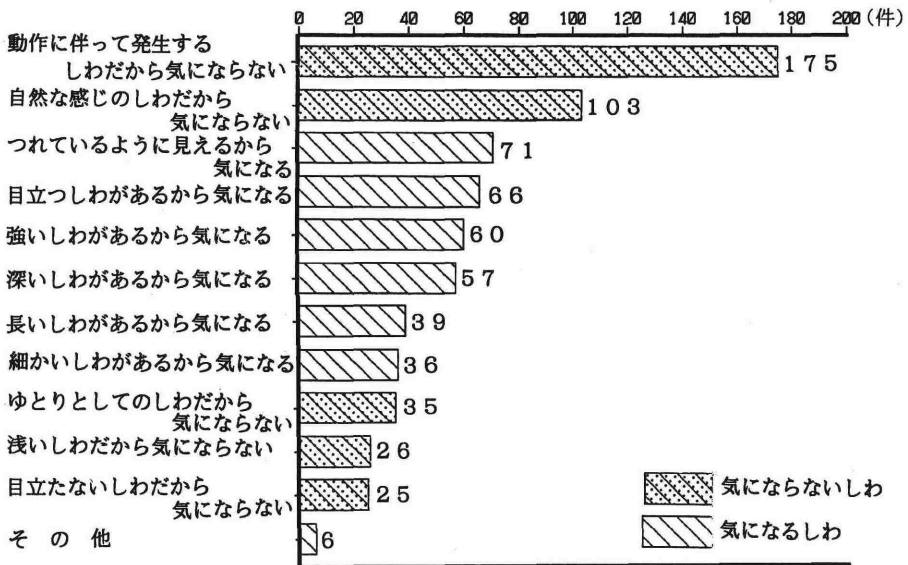


図8 着用じわの外観意識 (提示写真について)

れており、全体を「気になるしわ」、「気にならないしわ」と分けるとほぼ半々の結果であった。

2-3 考察 (表2)

意識調査の結果から、「一時発生的な着用じわ」について、「気になるとされたしわ」「気にならないしわ」は、運動量の不足したもの、体型や寸法が合わないもの、縫製不良のものにみられ、見苦しく、窮屈そう、仕立てが悪そうな

感じを与える、目立つつれじわと言える。

「気にならないしわ」は、適度なゆとりがパターン設計時に組み込まれているもので、自然な感じを受けるしわであると言える。

3. 着用じわの発生事例

3-1 事例収集

表2 一時発生的な着用じわの外観による分類

気になるしわ	見苦しい 窮屈そう 着心地悪そう 目立つ つれ 強い 深い 長い 細かい	<ul style="list-style-type: none"> ・パターン設計不良 (運動量不足) ・体型不適合 ・サイズ不適合 ・縫製不良
気にならないしわ	動作に伴うしわ 自然な感じ ゆとりとしてのしわ 浅い 目立たない	<ul style="list-style-type: none"> ・パターン設計良 (適度なゆとり含)

ジャケットの着用じわについて

学内及び近隣で撮影したジャケット姿の男女の写真約300枚について、着用じわの発生状態を性別・身頃（前面・側面・後面）・袖・その他の事例に分けて観察した。

分類した結果の代表的事例は以下の通りである。

3-2-1 婦人ジャケットにおける代表事例 （図9-1～15）

前面

・胸部に浮き、袖付け付近にタテの余りが見

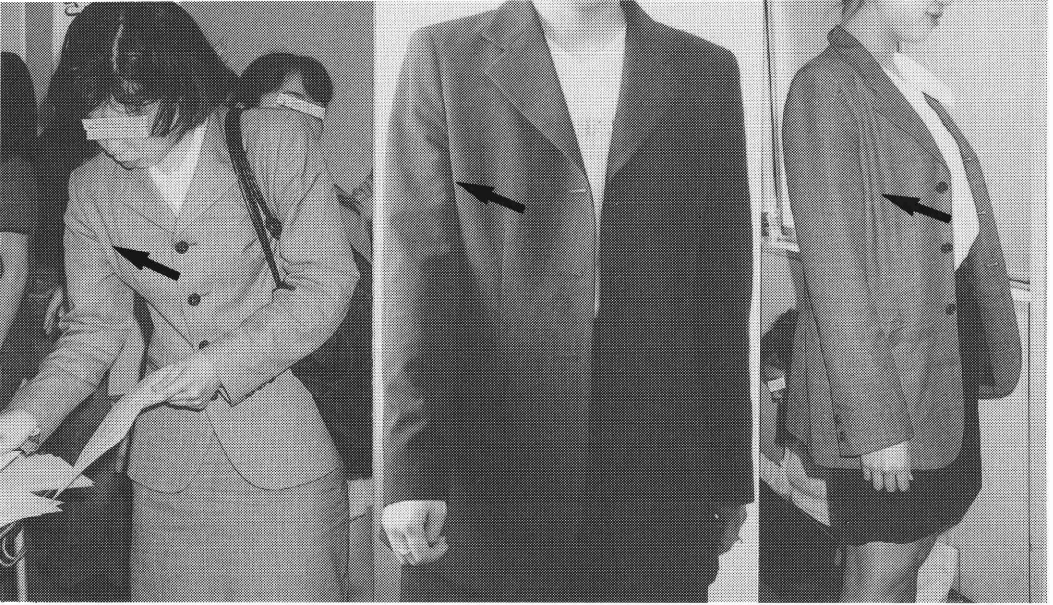


図9-1

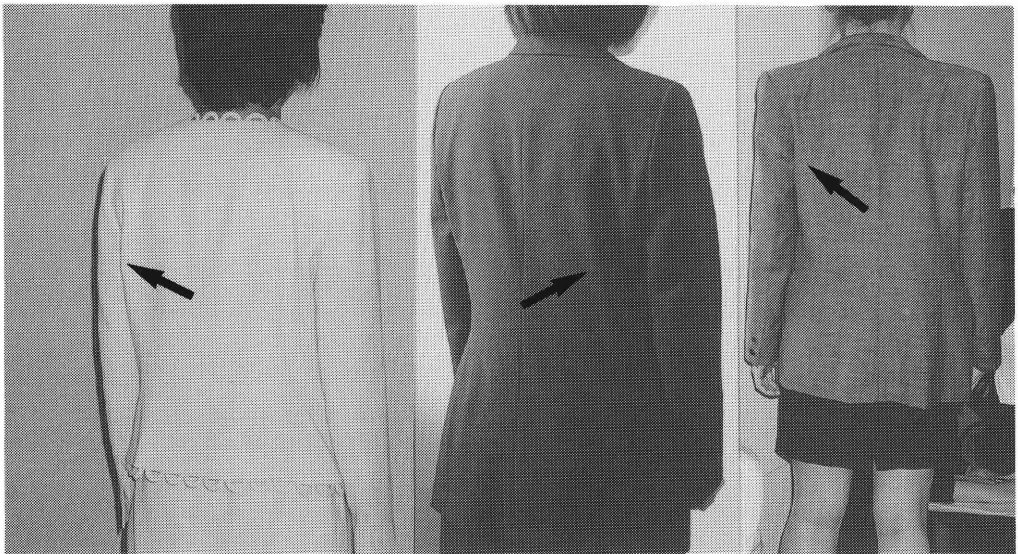


図9-2

られる。(図9-1)

後面

- 背部に浮き、袖付け付近にタテの余りが見られる。(図9-2)

側面

- 袖ぐり底から後身頃にかけて短いヨコ1本のたまりが見られる。(図9-3)

- 袖ぐり底から後身頃にかけて、長い斜めのしわが発生している。(図9-4)

袖

- 上腕前部に向かう斜めのしわ。(図9-5)
- 肩パッドの下にたくし込まれたしわ。(図9-6)

その他

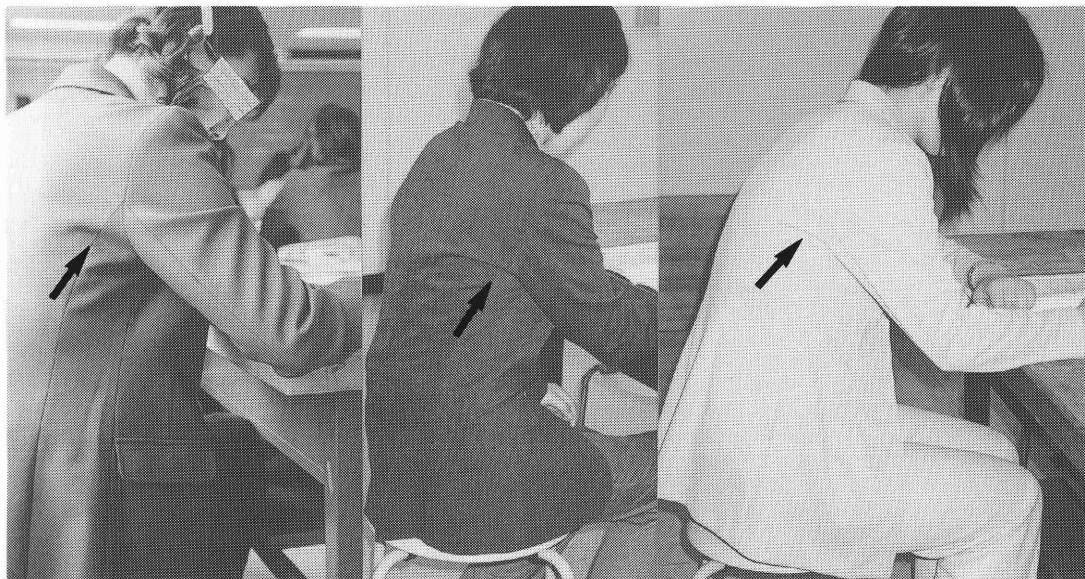


図9-3

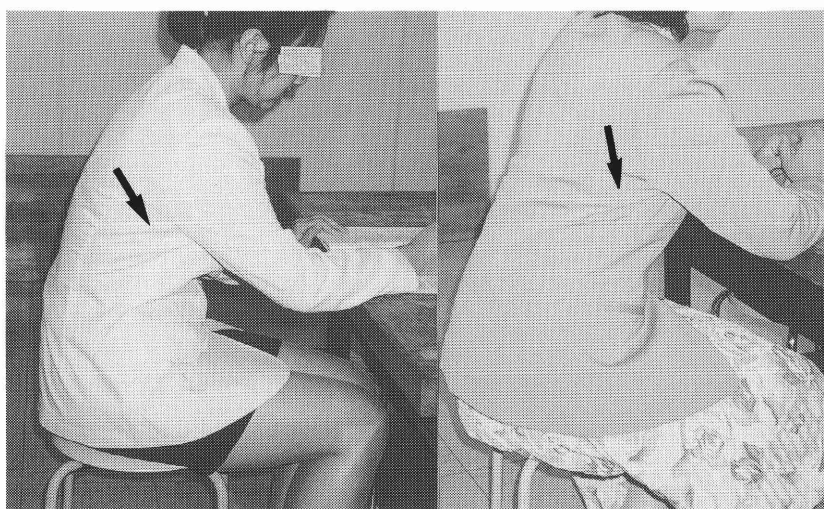


図9-4

ジャケットの着用じわについて

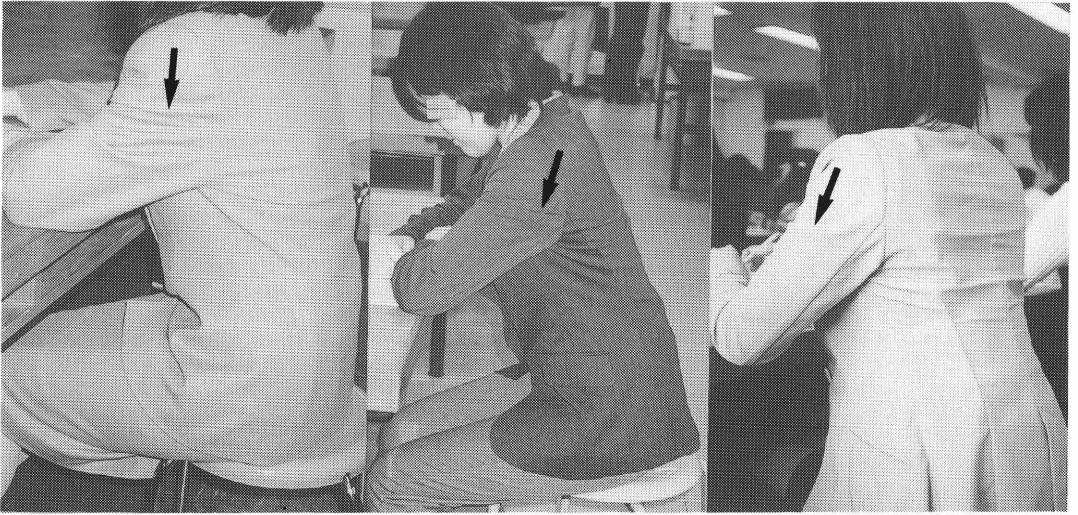


図 9-5

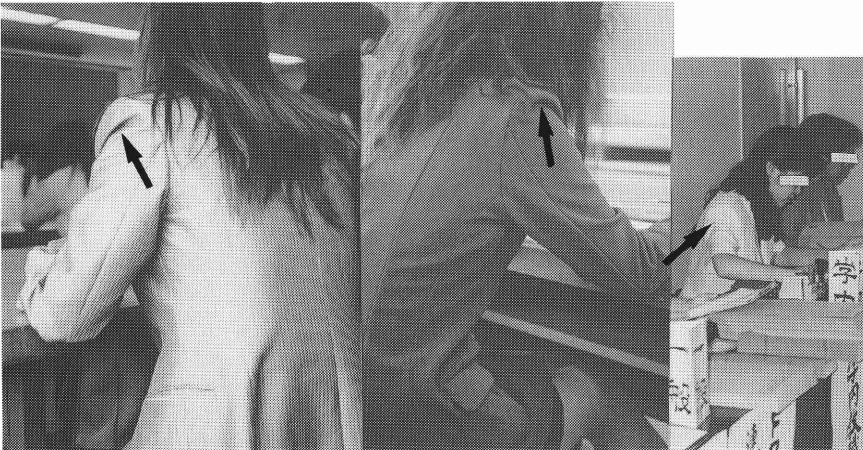


図 9-6

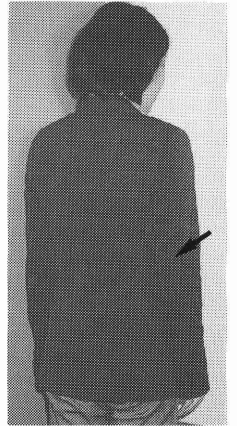


図 9-7

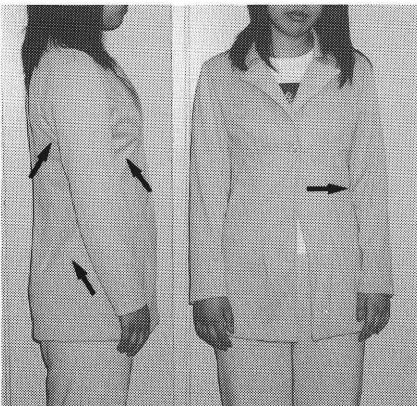


図 9-8

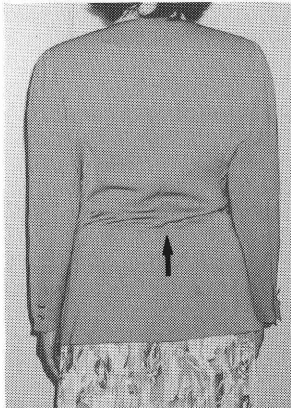


図 9-9

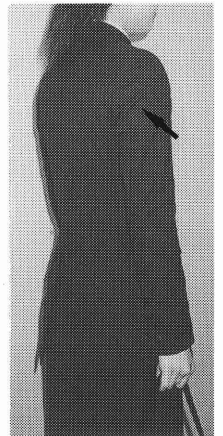


図 9-10

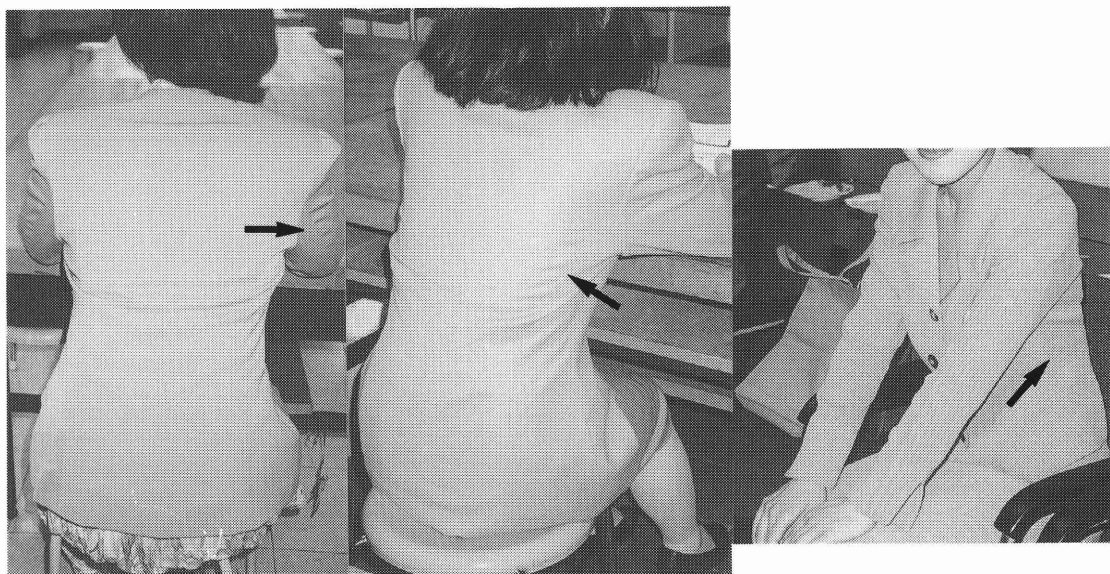


図 9-11

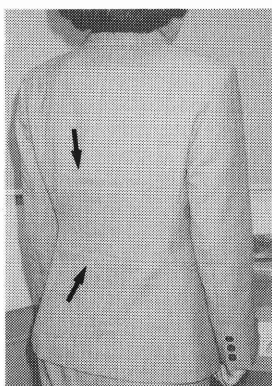


図 9-12

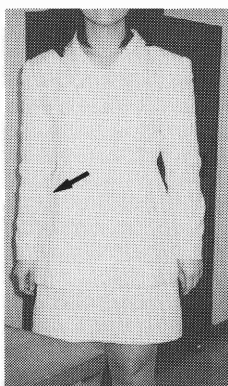


図 9-13

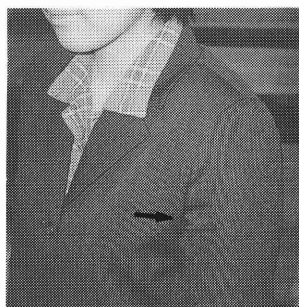


図 9-14



図 9-15

ジャケットの着用じわについて

- ・後袖の波打ち。(図9-7)
- ・袖のつれ・胸・肩甲骨・腰へ向かう斜めじわ。(図9-8)
- ・W付近のたまり。(図9-9)
- ・後袖のつれ。(図9-10)
- ・縫い目の片方にだけ生じたピリつき。(図9-11)
- ・後身頃についた横じわ。(図9-12)
- ・肘周辺についたしわ。(図9-13)

- ・前袖についた放射状のしわ。(図9-14)
- ・ショルダーバッグ携帯によるしわ。(図9-15)

3-2-2 紳士ジャケットにおける代表的事例
(図10-1~12)

前面

- ・上胸部のタテじわ。(図10-1)
- ・ボタン留めからの斜めじわ。(図10-2)

後面

- ・肩甲骨下から脇への斜めじわ。(図10-3)

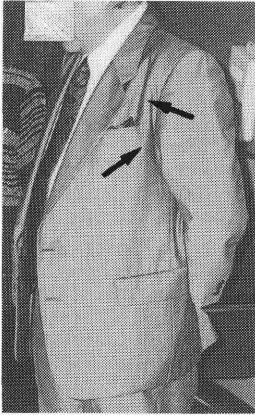


図10-1

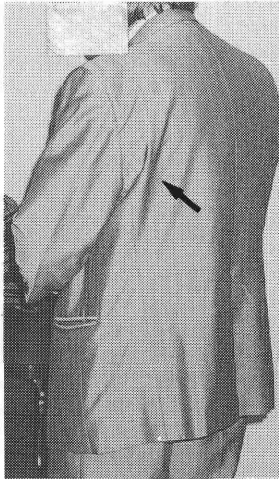


図10-3



図10-2

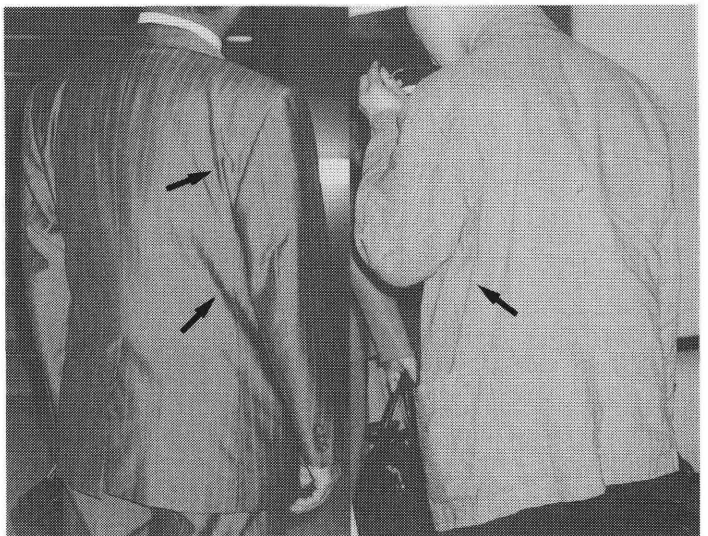


図10-4

- 肩から脇への長い斜めじわ。(図10-4)
- 後身頃の浮き。(図10-5-A)
- 定着した横じわ。(図10-5-B)
- 肩甲骨間の横じわ。(図10-6-A)
- 左肩甲骨下から右腰への長い斜めじわ。(図10-6-B)
- 首の後ろの横じわ。(図10-7-A)
- 細かい不規則な定着したしわ。(図10-7-B)

- 袖ぐり底から後身頃への短い1本のしわ。(図10-8)
- 同様に袖ぐり底から後身頃への複数の横じわ。(図10-9)

袖

- 前袖の放射状の定着したしわ。(図10-10-A)
- 前袖の大きな斜めじわ。(図10-10-B)
- 後袖に大きな斜めじわ。(図10-11)

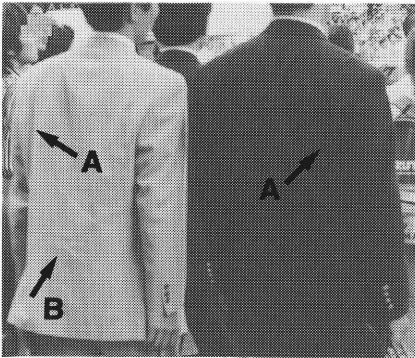


図 10-5

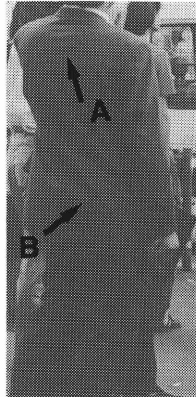


図 10-6

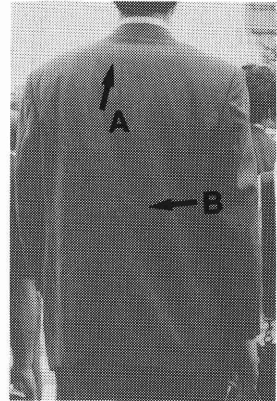


図 10-7

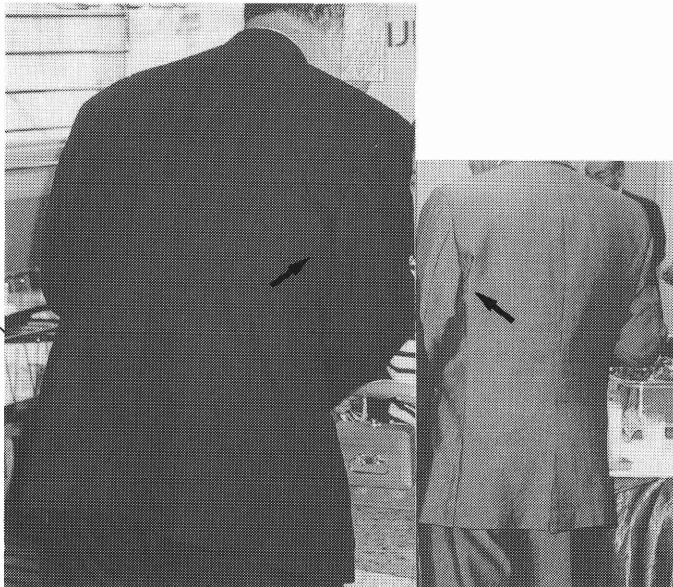


図 10-8

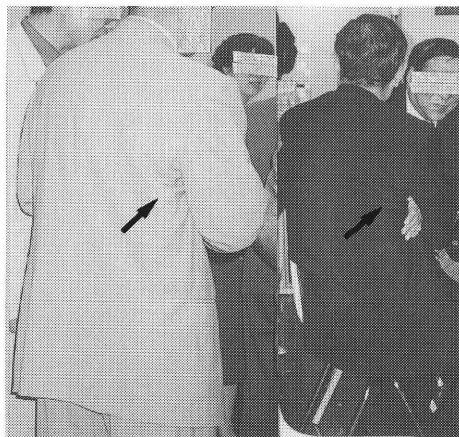


図 10-9



図 10-10



図 10-11

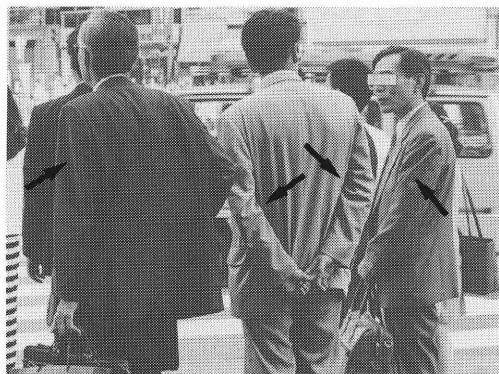


図 10-12

・後袖全体にしわ。(図 10-12)

紳士ジャケットのしわは、おおむね婦人と同じ状況だったが、背面上部のつきじわやたなじわ、後袖の波打ちは、婦人より多く見られた。

3-3 考 察

以上の写真によってしわを観察した結果は、これらのほとんどが動作による「一時発生的なしわ」であることが分かった。

「定着したしわ」と判断出来たのは、背面の背もたれの跡、袖の前腋点及び肘付近のしわである。

意識調査の結果、「気になるしわ」とされたもの(表 2)と対照してみると、机に向かっている時に脇から後ろにかけて発生した斜めじわ

や前袖のつれじわは、窮屈そうで目立つしわと言える。

ヒップの寸法不足や袖付け不良や胸ぐせ不足等の姿勢が変わっても解消しないしわは、見苦しいしわと言える。

一方「気にならないしわ」は、たくわえられた運動量が静立時に袖付け付近でしわとなっていたり、動作時の人体の変形量に服が追従出来ずに発生するしわで、当然のしわとして受容されていると言える。

4. ま と め

これらの特徴を関連づけて図 11 にしてみると、気になるしわは「定着したしわ」、あるいは「一時発生的なしわ」であっても、身体に不適合でつれて出来たしわであり、これは、斜めやヨコ方向のしわで、量は少ない場合でも「気になるしわ」と言える。

「気にならないしわ」は、着用時の一時発生的なしわで、余っているしわの場合は、タテ方向であり、多めであっても気にならないと言える。また、動作に伴ってつれて出来た斜めのしわも適量であれば、気にならないということが言える。

このような着用による一時発生的なしわについての的確に定量して評価する方法はなく、本報

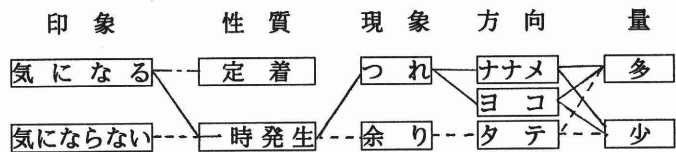


図 11 外観による着用じわの性状関連図

では写真観察と意識調査の結果を対照させたが、
今後はこれらの写真データをより多くして尺度
化する事ができないかと考えている。

本論文は、日本家政学会第 49 回大会におい
て発表したものに、加筆したものである。

参 考 文 献

- 1) 原田隆司, 黒木富男;織機誌, 35, 1982, 495 ~ 498
- 2) 松岡弘子, 丹羽雅子, 長江貞彦;織消誌, 25, 1984, 34~42
- 3) 加藤祥子;衣生活, 3, 1987, 40~44
- 4) 加藤祥子, 門松千寿子, 山田理恵;愛知教大家紀要, 19, 1987, 25~30
- 5) 篠原昭;織機誌, 35, 1982, 479~485